

訪問リハビリコラム 12月号

発行/2021年12月 発行者/瀧澤達也



あごをしっかり引くことはできますか？

今月は嚥下について理学療法士の目線で考えてみます。

嚥下障害には、嚥下に直接関係する嚥下中枢が障害されるもの、嚥下中枢までの経路が障害されるもの、嚥下中枢は障害されていないが嚥下困難となるものがあります。



嚥下中枢が障害されていないのになぜ？

嚥下の際には、喉ぼとけが拳がる必要があります。

しかし、加齢により姿勢が崩れると喉周囲の筋肉のバランスが取れなくなり、喉ぼとけがさがってしまい、拳がりにくくなってしまいます。

喉ぼとけが拳がるには、あごをしっかり引く筋肉が関わってきます。



- 脳血管疾患では動作が行いにくくなるために
- 整形疾患では痛みのために
- 内部疾患では息苦しさ等のために

首周囲に力が入りすぎて喉ぼとけは動かしにくくなります。

加えて臥床によって全身的な筋力低下が起こり、より姿勢が崩れて喉ぼとけはより動かしにくくなります。



嚥下訓練のみではなく全身の機能改善が必要となる場合があります。

嚥下障害は、言語聴覚士のみでなく理学療法士が関わることで、改善できるかもしれません。また、認知機能の低下では食事や場の理解ができず食事が困難となっていることもありますので、作業療法士が関わることで改善できるかもしれません。

嚥下でお悩みの方がいたらお気軽にご連絡ください。